

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名グループホームさわやか)

事業所番号	0692700024		
法人名	株式会社アクト		
事業所名	グループホームさわやか		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生4284-3		
自己評価作成日	令和 6年 9月 17日	開設年月日	平成24年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、畑や花壇があり、旬の味を楽しんで頂いている。当施設のケア理念である「お客様の尊厳を守ります」「心に寄り添い笑顔で接します」の下、各入居者様がこれまで培ってきた生活スタイルを尊重し家庭的な雰囲気の中で、家族のように過ごして頂けるよう一人ひとりの気持ちを受け止め楽しく張り合いのある生活を送って頂けるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 10月 21日	評価結果決定日	令和 6年 11月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者職員は家族のように思いやりの気持ちを持ち、寄り添いながら分け隔てなく和気あいあいと仲良く楽しく過ごし、調理や洗濯物干し・たみなどの家事活動も利用者が進んで分担しながら行っています。畑作業では利用者の助言等があり、種まきから水やり・収穫まで職員も一緒に行い、収穫した野菜を使った料理を美味しく食べています。地域の獅子祭りや子ども祭りでは獅子舞や神輿が来訪し、お祭り気分を味わい楽しみとなり、地区文化祭には公民館に利用者が折り紙で作った制作物を展示し、見学に行き地域との交流を深めています。理念の「愛情のこもった対人関係・入居者の意思を尊重した自立支援・地域に密着した交流」を実践し地域と共に歩んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体が周知できるように、施設内に掲示している。又、職員会議の場では職員間で情報を共有する機会を設け、実践に繋げている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や文化祭には参加しているが、事業所の夏祭りはコロナ感染予防の為自粛した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所の取り組みや日々の暮らしを紹介し、理解を深めてもらうように努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、入居者様や地域代表の方々、町役場の福祉課の方に参加して頂き口頭のみではなくスライドショーを活用し日々の様子や活動内容をわかりやすく報告している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場に伺った際、施設の現状を伝えたり、分からない事や曖昧な事に関しては問い合わせを確認している。又、運営推進会議時にも意見を頂いている。知識の向上に努めながら連携を図っている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は施錠せず鈴やセンサー等で対応している。入居者一人ひとりの状態を把握し、安全に配慮しながら身体拘束をしない工夫に取り組んでいる。	「高齢者虐待防止・対応マニュアル、身体拘束防止マニュアル」をさわやかグループで規定を作成し、身体拘束の具体例をあげ全職員参加のケア会議で研修を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。帰宅願望や外出希望があった場合は個別対応でドライブなどに出かけ、ストレスがないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの実践の中での無理強いや声掛けも場合によっては虐待に繋がることを理解し、どのように対応・声掛けしていくか内部研修会を行い理解を深めた。	虐待防止の研修で全職員が理解している。虐待の種類や具体例を細部にわたり記載されたマニュアルを指針として、会議や研修を重ね理解し、職員同士が不適切なケアについて話し合い、早期発見に努め利用者が安心して快適に暮らせるように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、文書と口頭にて十分な説明を行い、不安な点や疑問点を聞きながら、理解・納得を得ている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見、要望は生活の場でその都度伺い、家族様の意見、要望は面会時や電話にて対応している。個々の気持ちを汲み取り、運営に反映している。	普段の生活の中で利用者の思いを把握し、外出や外食など個別に対応してしている。家族等とは面会時に意見や要望を聞き運営に活かし、利用者の様子を細かく話をして信頼関係づくりに取り組んでいる。写真を多く取り入れた「さわやか新聞」を送り、生活の様子がわかると好評を得ている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の職員会議など意見を交換しながら、専門職としてやりがいを感じられるようにしている。労働条件に関しても話し合いの機会を設けている。時間外手当が支給されている。職員の状況を把握している。	管理者は日頃から職員と一緒に仕事をしながら職員個々の努力や勤務状況を把握し、月1回の職員会議や年1回の面談でも意見や要望を聞いている。有給休暇は全員が取得し急な勤務変更にも対応できており、安心して働けるよう取り組んでいる。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、適切な研修が受けられるよう働きながら参加できるように配慮している。外部研修後は職員会議にて伝達研修を行い情報共有できるように努めている。	外部研修は本人希望や管理者が経験年数等で派遣し、研修後は職員会議で報告し共有を図り、資料や報告書はいつでも閲覧できるようにしている。時間外手当や資格取得手当もあり、職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。個人目標を設定して、管理者との面談等で確認しながら質向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ感染予防の為直接的な交流はなかった。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の本人との面談時に不安や、要望を伺い、希望を反映させた介護計画を立案し、安心した生活を送れるよう関係構築に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>現状での不安を汲み取れるよう家族の立場に立って考え、気軽に話しかけて頂けるような雰囲気作りを心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事前の情報収集に努め、客観的な視点と本人、家族様の要望を照らし合わせ、優先すべきサービス内容を思考し実行していく。</p>		
18	(6)	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常的に軽作業を自ら進んで手伝って下さる。干し柿作りでは、分からない職員にも丁寧に教えて頂いた。</p>	<p>お茶会での何気ない話や、居室で1対1の時に本人の思いを聞いている。家事活動の洗濯物干しやたたみは自ら進んで分担しながら行い、漬物などの調理を教えてもらう場面もある。利用者と職員と一緒に畑に行き、苗植えや水やりも行い収穫した野菜を食卓に載せ皆で和気あいあいと仲良く生活出来るよう支援している。</p>	
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>コロナも少しずつ落ち着いてきた事もあり面会も通常通り出来るようになった。近況報告を行うことにより、ご本人とご家族との関係も継続できるように努めている。</p>		
20	(7)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人や場所を把握して、関係性が途切れないようにしている。本人の意思確認を行いながら、行きつけの美容室などへの外出など家族と協力しながら支援に努めている。</p>	<p>面会や外出は従来通りできるようになり、行きつけの美容室に行く方や近くの理容師の訪問もあり、楽しみともなっている。地区の獅子祭りや子ども祭りでは獅子や神輿が来訪し楽しいひと時を過ごしている。公民館で開催される文化祭に折り紙を使った制作物を出展し利用者も見学に行き地域との交流を継続している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士会話を持ったり、家事を分担して行ったり、一人ひとりができることを優先し協力し合っている。時には喧嘩もあるが、お互いの意見をぶつけ合う場面が持てている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の経過確認、面会等も行っている。必要な情報提供や相談援助に努め、関係性が途絶えないようにしている。ご家族様が退所後も顔を出してくださる関係性ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の言語を観察し、思いや意向を汲み取り、職員・家族間で話し合うことで暮らしやすい環境作りに努めている。個別に要望・要求に対して対応できるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を基に生活歴・馴染みの暮らし方を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を判断し、本人・家族や医療機関の意見も考慮しながら職員間で情報を確認・共有し対応を検討している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員の意見をアセスメントし、ケアプランに反映させている。また定期的な見直しを行う事で、ご本人の状態に適した介護計画を提供できるように努めている。	利用者・家族等の意向を一番に、担当職員やケアマネジャーの意見、経過記録を基にケアプランを作成している。担当者会議にはなるべく家族等に参加してもらい、来れない場合は電話で意見・要望を聞き、計画に反映させ利用者が穏やかに楽しく過ごせるよう支援している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や気づき等も考慮したうえでカンファレンスやミーティングで話し合いを行う事で情報共有及び介護計画の見直しに繋げている。	一人ひとりの言動や行動を経過記録に記載して、介護計画の見直しにも活かしている。業務日誌にはその日の様子を記録し、利用者の状態がわかるようにしている。申し送りノートも活用して出勤時に必ず確認し、押印して職員間で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況の変化が少しでもあった場合、ご家族様に連絡をし説明を行っている。ご家族様にも何かあった場合は連絡をして頂くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りや文化祭に参加出来た。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の情報を取り、出来る限り施設で受診対応をしている。クリニックが隣接している為、緊急時の対応が可能。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為24時間対応可能。ミーティングにも参加し情報共有している。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設として持っている情報を提供し早期退院・治療に貢献できるように努めている。面談や電話等で医師・看護師・医療連携室相談員と情報交換をしている。また助言を頂いている。	入院の際はケース連絡票を持参し情報を提供している。入院先の看護師や医療連携室相談員と連携を密にして、入院中の回復状況や退院見込みがあり食事ができるかなどの情報も聞いている。入院期間は3ヶ月を延長しても戻れる場合は居室を開けて待ち、他施設の案内や手続き等も行い家族等の不安がないように努めている。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様には終末期において経口摂取ができる状態までを目途に、看取りは行えない事を伝えている。状態変化時などに再度、意向を確認し、ケア方針に反映させている。	契約時に「重度化対応に関する指針」を基に経口摂取ができなくなった状態を重度化とし、次の生活拠点の確保にむけて支援することを説明し理解を得ている。重度化してきた場合は家族等へ入院や他施設への申し込みを案内してスムーズな拠点移動となるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会で救急処置及びAED講習受講している。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同設の居宅介護支援事業所、有料老人ホームと合同で、災害訓練及び避難訓練を実施。地域の方は都合がつかず参加できなかった。	3月に消防職員立会いでさわやかグループ合同の火災時避難訓練を実施し、11月にはエレベーターが使えない状態での水害時合同災害訓練を予定している。また事業継続計画を策定して内部研修で非常災害時・感染発生時の対応について各自の役割分担や避難場所などを確認している。	訓練終了後、職員の感想や反省点を記録として残し今後活かすことに期待したい。また、食料品の備蓄が不十分と思われるので非常食の試食会を設けるなど工夫しながら確保することも望まれる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接し、一人ひとりのプライバシーや誇り、意思を大切に、信頼関係作りを努めている。	内部研修やケア会議で接遇や認知症ケアについて学び、人格を尊重した対応に努めている。利用者一人ひとりの性格やこだわりなどを職員間で把握・共有して同じ対応で接し、羞恥心やプライバシーが伴う介助には特に気を付けてサポートしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に選択・表出する機会の場を設けている。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし意向を尊重し、要望に応じ個別に対応し支援している。	利用者の自由な時間を大事にすると共に、要望に応じて買い物や外出にも個別対応で支援している。誕生日には好きな物や食べたい物を聞いて提供し、服選びも本人が選ぶなど自己決定できるような場面づくりを心掛け、自立にむけた援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度理容室の訪問があり、希望に沿って行っている。入浴時の着替えの衣類はなるべく本人様を選んで頂くなど、本人の意向を尊重している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に聴き取り、要望に応じている。畑から収穫したり、得意な料理・季節の料理・おやつ作り等をして頂いている。行事では出前を取り入れ、気分転換を図り喜ばれている。	皆で栽培した旬の野菜も取り入れながら事業所で3食手作りしている。昔ながらの料理には利用者の出番も多く、取れすぎた野菜も漬物にしたりして余すところなく食している。また寿司やラーメンなどの外食や出前を食べたいその日に決めることもあり急な要望にも応え喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変更し提供。好みの飲み物や果物の提供。食事摂取が難しい方は医師の助言・指示により提供。			
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援をしている。食事前には口腔ケア体操を取り入れ、誤嚥を予防し嚥下を促進する体操を行っている。	歯磨きは自分でできる方や介助が必要な方もおり個別に対応して口腔内の清潔保持に努めている。昼と夕食前には「声を出す」「手を動かす」「舌を出す」などの体操で嚥下を促進し、最後にむせた時の「エッヘン！」を練習して誤嚥予防している。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導や個々のサインを見逃さないように支援し、できる限りトイレでの排泄に繋げている。	全員自分の力でトイレでの排泄ができており、間隔が空いている時に声掛けしている。失敗時は他の利用者に気付かれないように耳元でそっと促し配慮した対応に努めている。また本人の意向に沿った排泄用品で心配性の方も安心できるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や果物、発酵食品を提供している。			
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基準としながら、出来る限り個々の希望に沿った入浴計画を立てている。入浴剤を使用し楽しんで頂いた。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、個々の生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。			
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時口頭や申し送りノートを活用し情報共有されている。服薬まで2回の確認や薬袋を1日保存し飲み忘れてないか、飲み間違えはないかダブルチェックしている。	利用者一人ひとりの薬剤情報書は個人ごとファイルにして、わからない薬などは施設長（看護師）に聞いて理解ができている。薬の変更時にはかかりつけ医や薬剤師と情報を共有すると共に、職員間でも申し送りして服用後の状態変化に注視している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節毎の花見やドライブの実施。家事活動の支援。畑の管理。歌やかるた、トランプ等の活動支援。</p>		
49		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節の花の見学や近所に散歩。本人希望にて個別対応でドライブに行かれ気分転換を図った。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物に行かれた際は好きな物を買って頂き、立替請求している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>毎月のように手紙のやり取りをしている方がいる。電話はコードレス対応で、家族と常に連絡が取れる状態となっている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花や植物・造花を飾り、花の好きな方は水やりを進んでされ、成長を楽しんで頂いている。食堂・ホールには季節に応じた装飾をしている。冬期間は積雪等で神社への参拝が困難な為手作り神社（さわやか神社）にて参拝して頂いている。</p>	<p>四季ごとにホールの壁面装飾を変えて季節感を大切に設えをしている。10時・3時のお茶会や午後のレクリエーション活動、家事活動などを皆で行い活気あふれる毎日を送っている。朝夕の清掃は職員が行い、定期的な換気や消毒液を入れた水拭き、空気清浄機の設置などで感染症対策を講じた環境整備に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを設置し個人で思い思いに過ごしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用している物を持って来て頂き、本人や家族と相談し、意向に合わせた支援を行っている。	備え付けのベッド、クローゼット、タンスがあり、他は持ち込み可能となっている。家族等と相談しながら自宅に似た環境になるような部屋づくりをして安心できる暮らしを提供している。またセンサーを活用している方もおり安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、トイレ・浴室・廊下に手すりを設置。転倒予防の鈴やセンサーの設置や見守りの強化等、予防策を講じてより安全に過ごせるよう配慮している。		